

緊急時における児童の避難について

1 地震発生時の児童の避難

地震発生 職員室にいる職員は、すぐに緊急校内放送で知らせる。

放送 「地震です。物が落ちたり、倒れたりしない場所に避難しなさい。」
(おさまったら)
「地震がおさまったようです。先生の指示に従って運動場に避難しなさい。」

児童の動き

(避難経路は火災発生時と同じ。**津波**の恐れがある場合は、校舎内3階へ避難する。)

授業中

- ①ゆれたらすぐに机の下などに身を入れて頭部を防護する。
- ②放送をよく聞く。
- ③放送および教師の指示に従い、避難する場合は「おかしも」を守って避難する。
- ④避難は落下物から身を守るために、身近なもので頭部を防護しながら避難する。

休憩中(屋内)

- ①放送をよく聞く。
- ②・**教室**にいる場合は、直ちに机の下などに身を入れて頭部を防護する。
・**廊下・体育館**にいる場合は、ガラス窓から離れ、各場所の中央で身を伏せる。
・**トイレ**にいる場合は、ドアを開き、その場で地震がおさまるのを待つ。
- ③地震がおさまるのを待ち、より安全な場所に避難する。

休憩中(屋外)

- ①放送をよく聞く。
- ②校舎や塀から離れ、頭部を守るようにして伏せる。
- ③地震がおさまるのを待ち、より安全な場所に避難する。

登下校時間帯

- ・大きな塀や屋根の下から離れ、最寄の安全な場所で待機し、近くの大人の指示に従う。揺れが収まったら学校か家か近い方へ向かう。
- ※教職員は、通学路を巡視し、児童の安全を確認し誘導する。

2 火事発生時の児童の避難

地震発生 職員室にいる職員は、すぐに緊急校内放送で知らせる。

放送 「〇階〇〇が火事です。先生の指示に従って運動場に避難しなさい。」

児童の動き

授業中

- ①放送で、出火場所、避難経路、集合場所を聞き取る。
- ②教師の指示に従い、ハンカチで鼻と口を押さえ、低い姿勢で避難する。「おかしも」を守る。

休憩中(屋内・屋外)

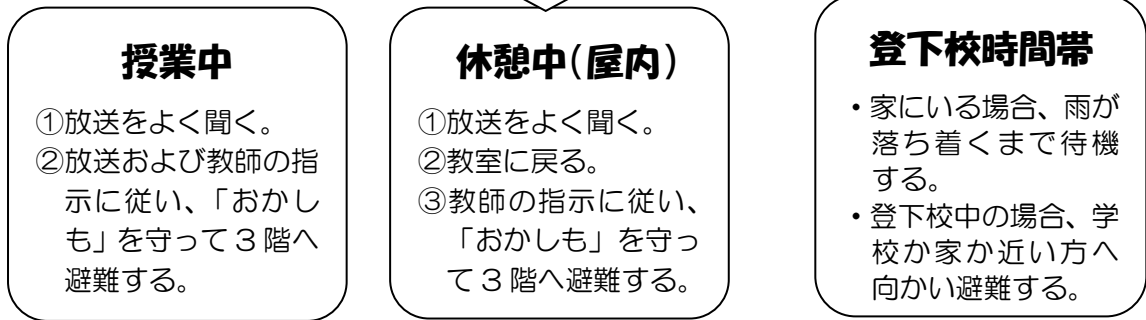
- ①放送で、出火場所、避難経路、集合場所を聞き取る。
- ②ハンカチで鼻と口を押さえ、低い姿勢で集合場所へ自分で向かう。「おかしも」を守って避難する。

3 大雨等による浸水時の児童の避難

浸水の危険 職員室にいる職員は、すぐに緊急校内放送で知らせる。

放送 「ゲリラ豪雨により、浸水の恐れがあります。先生の指示に従って3階6年教室・ワークスペースに避難しなさい。」

児童の動き



※井上小学校は海拔3.2mの位置にあり、「津幡町洪水ハザードマップ」によると、津幡川等が想定しうる最大規模の降雨によって氾濫した場合、床下程度が浸水する区域に入っています。その場合、3階に避難し、水が引くのを待つことになります。ご家庭でも、浸水した場合の避難について話し合ってみてください。

4 不審者侵入時の児童の避難

●の時点で

非常ベル

教員は、笛の音をつなぐとともに、非常ベルを鳴らす

放送

「只今、〇階〇年教室の近くから非常ベルが鳴っています。故障ではありません。原因を調べています。すべての活動を停止して、先生の指示を聞きなさい。」

児童の動き

(授業中)

- ・活動を停止して放送や先生の指示を聞く。
- ・教室の出入口を施錠し、廊下から離れた見えにくい場所(隅)に固まって校内の物音に耳をすませながら静かに待つ。
- ・状況によっては、1階の児童はベランダから外の安全な場所に避難する。

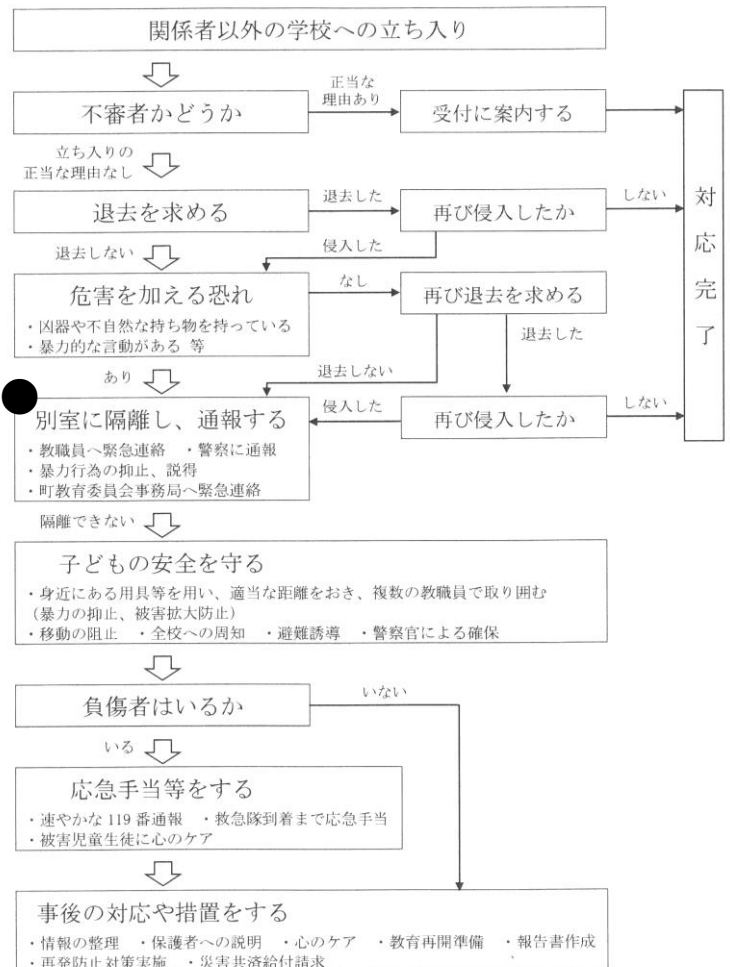
(休み時間)

【校内にいる場合】

- ・活動を停止して放送や先生の指示を聞く。
- ・近くの教室に入って、出入口を施錠し、廊下から離れた見えにくい場所(隅)に固まって校内の物音に耳をすませながら静かに待つ。

【運動場にいる場合】

- ・校舎から離れ安全な場所に避難する。



「津幡町教職員 防災ハンドブック」より